

第29回火山噴火予知連絡会 議 事 録

日 時 : 昭和58年10月17日 14時－17時20分

場 所 : 気 象 庁 第1会議室

出 席 者 : 委 員: 下鶴, 横山, 高木, 力武, 青木, 久保寺, 加茂, 太田, 小坂, 吉村^{*}(科技
庁), 清水, 飯田^{*}(文部省), 小野, 水野, 土出^{*}(水路部), 高橋, 竹内,
山川, 田中^{*}(気象研), 原田
注) *印: 委員の代理出席, ()内は所属

臨 時 委 員: 荒牧(東大震研)

オブザーバー: 鉢嶺(国土庁), 小野寺(文部省), 一色, 曾屋(地質調), 熊谷(防災
セ), 山崎(管理課), 久本, 内田, 小宮(地震課), 秋山, 福留(地震
予知情報課), 丸山(東京管区气象台)

庶 務: 浜松, 吉留, 永福, 安藤, 宇平

[議事に先だち山川委員から臨時委員の紹介があった。]

1. 新委員の紹介(山川委員)

東京大学地震研究所渡部暉彦助教授が新たに委員に就任

国土庁震災対策課長小松原茂郎から清水一郎

文部省学術課長川村恒明から重藤学二

2. 第28回連絡会議事録(案)は異議なく承認された。

3. 最近の火山活動

3.1 三宅島

浜松(気象庁): 噴火に至る経過, 地震観測状況等について

山川委員: 10月3日夜の震度Vの地震のメカニズムについて

宇平(気象庁): 現地の状況報告

小野委員: 次の両氏に説明をお願いする。

一色(地質調): 三宅島火山の過去3000年間の活動

曾屋(地質調): 三宅島火山1983.10.3噴火の経過等について

荒牧臨時委員: 三宅島1983年10月3・4日噴火の噴出物調査

小坂委員: 三宅島噴火後のガス分析値等について

土出委員代理: 三宅島火山噴火に伴う海底火山活動調査について

田中委員代理: 溶岩流温度等について

高橋委員: 三宅島噴火前後の地震活動について

下鶴会長: 三宅島噴火後の観測体制の現状

高木委員: 三宅島噴火後の地震活動

原田委員: 三宅島噴火後の地磁気移動観測実施について

(観測結果はできるだけ早くお返ししたい)

昭和58年(1983年)三宅島噴火についての統一見解

「気象庁及び緊急に出動した観測班の各種の観測結果によれば、10月3日噴火した三宅島の火山活動の状況は、17日現在、次のとおりである。

- (1) 溶岩及び火山灰を多量に噴出した火口から、新たに噴火する兆候はみられないが、高温でかつ有毒ガスを噴出している地点もあるので、火口付近へ立入ることは危険である。
- (2) 今回の噴火に伴う有感地震の頻度は減少しつつあるが、雄山南西部に発生している微小地震活動はなお続いている。
- (3) 雄山山頂の熱分布には変化は認められない。

以上、現在までの観測結果を総合すると、今回の三宅島の火山活動は、新火口群及び雄山山頂をも含め新たに活発化する兆候はなく、終息に向かいつつあるものと推定されるが、なおしばらく十分監視していく必要がある。

3.2 桜島

吉留(気象庁):最近の活動の特徴と被害について

加茂委員:爆発回数の推移、地震の発生状況等について

(このまま大規模な活動に移行する兆候は認められていない)

原田委員:地磁気観測結果

(特に有意義な変化は認められていない)

3.3 草津白根山

永福(気象庁):機動観測結果と噴火時の状況について

小坂委員:湯釜新火孔火山ガスの化学成分等について

3.4 伊豆大島

福留(気象庁):地球潮汐の振幅変化等について

秋山(気象庁):ステップ状変化と地震活動・歪変化との関係

下鶴会長:伊豆大島集中総合観測結果

(三原山砂漠の全磁力が減少していた)

力武委員:重力の連続観測の必要性について

3.5 阿蘇山

吉留(気象庁):微動の一時的増大について

久保寺委員:1983年6月阿蘇カルデラ北部の群発地震

原田委員:地磁気観測結果

久保寺委員:阿蘇カルデラ外で発生する地震を区別することについて

3.6 浅間山

田中委員代理:浅間山の光波測量

小坂委員:噴出火山灰水溶性成分等について

3.7 富士山

高橋委員:1983年9月富士山付近の微小地震活動

下鶴会長:同上

3.8 有珠山

横山委員：地殻変動，地震活動，噴気温度等について

3.9 北海道駒ヶ岳

横山委員：1983年6月の群発地震

3.10 樽前山

横山委員：辺長測定結果，地震活動

3.11 南硫黄島周辺海底火山

土出委員代理：最近の活動等について

3.12 その他

小野委員：1983年大島地下構造探査実施計画について

4. 火山噴火に関するデマについて

山川委員：特定の火山が特定の日に噴火するというデマには気象庁としては反論のキャンペーンを繰返してきたが，今後も政府広報等を通じ，積極的に対処していく方針である。

5. その他

清水委員：火山観測，情報伝達体制の総点検について

下鶴会長：三宅島火山基本図とレベリングについて

水野委員：同上基本図は本年度作成の予定である

下鶴会長：スミソニアンファイルに日本の火山の噴火前兆現象を入れることについて（USGS要請）

6. 三宅島の今後の観測について

下鶴会長：東大震研は10月いっぱい続け，あと縮小したい

山川委員：三宅島は常時観測火山であり，御岳山とは事情が異なるが，気象庁としても対策を講じた
い

吉村委員代理：特調費はプロジェクトとして成立つかが問題である。

高橋委員：防災センターでは三宅島の1点3成分を近く筑波ヘレメーターする予定である

横山委員：気象庁の十勝岳観測体制について

7. 次回連絡会開催期日

山川委員：2月10日まえを予定しているが，後日おはかりしたい。

8. 提出資料

1) 東京都の島しょ地域における災害に関する総合調査報告書

（昭和56・57年度東京都防災会議地震部会調査研究別刷）……東大震研

2) 突発災害調査研究の総括(4)ー自然災害科学総合研究班……東北大学

3) 火山機動観測実施報告（富士山，八丈島，草津白根山）……気象庁

4) 北海道地域火山機動観測実施報告（大雪山）……気象庁

会終了後，桜島，三宅島火山につきスライド投影

〔17:30－18:00 記者会見 気象庁記者室〕